

論点
資料 ⑦

質の高い探究的な学びの実現

(情報活用能力との一体的な充実)

探究的な学びを取り巻く現状

1. 諮問文と探究の現状
2. 国際的潮流と社会状況の変化

1. 諮問文と探究の現状

「諮問」（関係部分抜粋）

- 生成AIをはじめデジタル技術が飛躍的に発展する中、小中高等学校を通じた情報活用能力の抜本的向上を図る方策についてどのように考えるか。小学校では各教科等において、中学校では技術・家庭科、高等学校では情報科を中心として情報活用能力の育成が行われているが、その現状と課題、海外との比較を踏まえた今後の具体的な充実の在り方をどのように考えるか。その際、生成AI等の先端技術等に関わる教育内容の充実のほか、情報モラルやメディアリテラシーの育成強化について教科等間の役割分担を含めどのように考えるか。
- 質の高い探究的な学びを実現するための「総合的な学習の時間」、「総合的な探究の時間」の改善・充実の在り方をどのように考えるか。その際、情報活用能力の育成との一体的な充実や教科等横断的な学びの充実をどのように考えるか。

「質の高い探究的な学び」は、これからの社会と教育課題 (諮問文の「検討の前提」) の全体につながるテーマ

子供たちを取り巻く これからの社会

自らの人生を舵取りする
力を身につけること



持続可能な社会の
創り手となること



豊かな可能性を
開花できること



子供一人ひとりに目を 向けた時に見えてきた課題

子供の社会参画
の意識



知識と現実の事象
を関連付けて理解



将来の夢を持つ
子供の割合



深い理解を伴う
知識の習得



自律的に学ぶ
自信



「自分の考え」
を書くこと



探究的な学びと総合的な学習の時間（現行の位置づけ）

探究的な学びは、学習指導要領において、総合的な学習（探究）の時間を中心として、様々な教科等に位置づけられている。

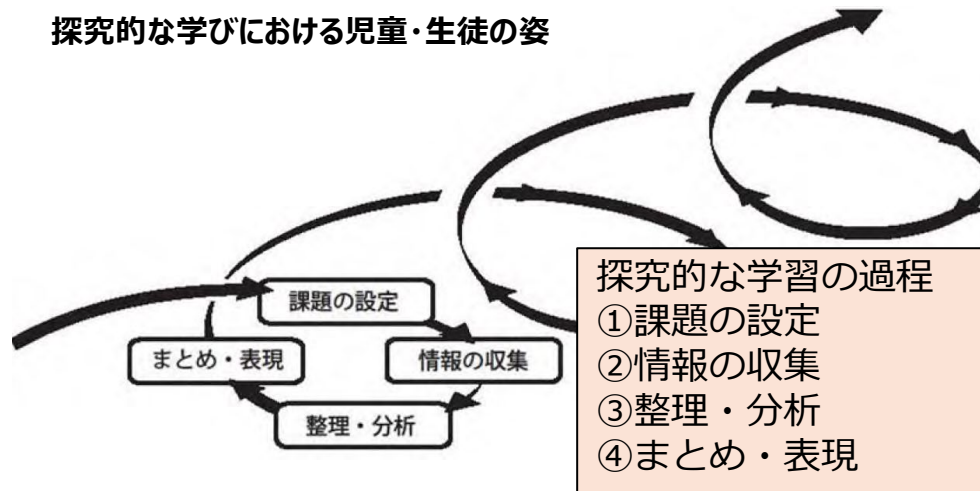
※ 中学校 理科・社会、特別の教科 道徳、高校 地理・歴史探究、古典探究・理数探究等にも位置づけがある。

探究的な見方・考え方

（小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編）

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、**実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続ける**こと。

探究的な学びにおける児童・生徒の姿



総合的な学習の時間

（小学校学習指導要領 第5章 総合的な学習の時間）

第1 目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、**自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。**

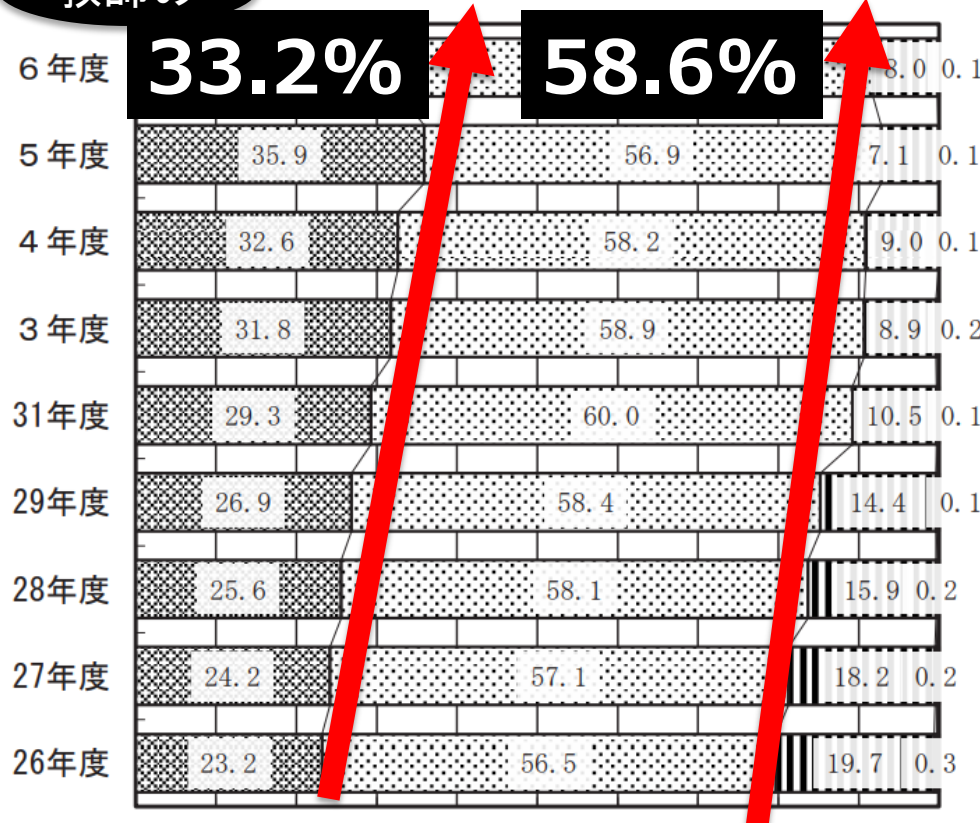
- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

※ 総合的な学習の時間の特質として、第1の目標を踏まえ、各学校で目標及び内容を定めることとしている。

探究の過程を意識した指導を 「よくしている」教師は増加傾向（3～4割） （「どちらかといえば、よくしている」を含めると9割超）

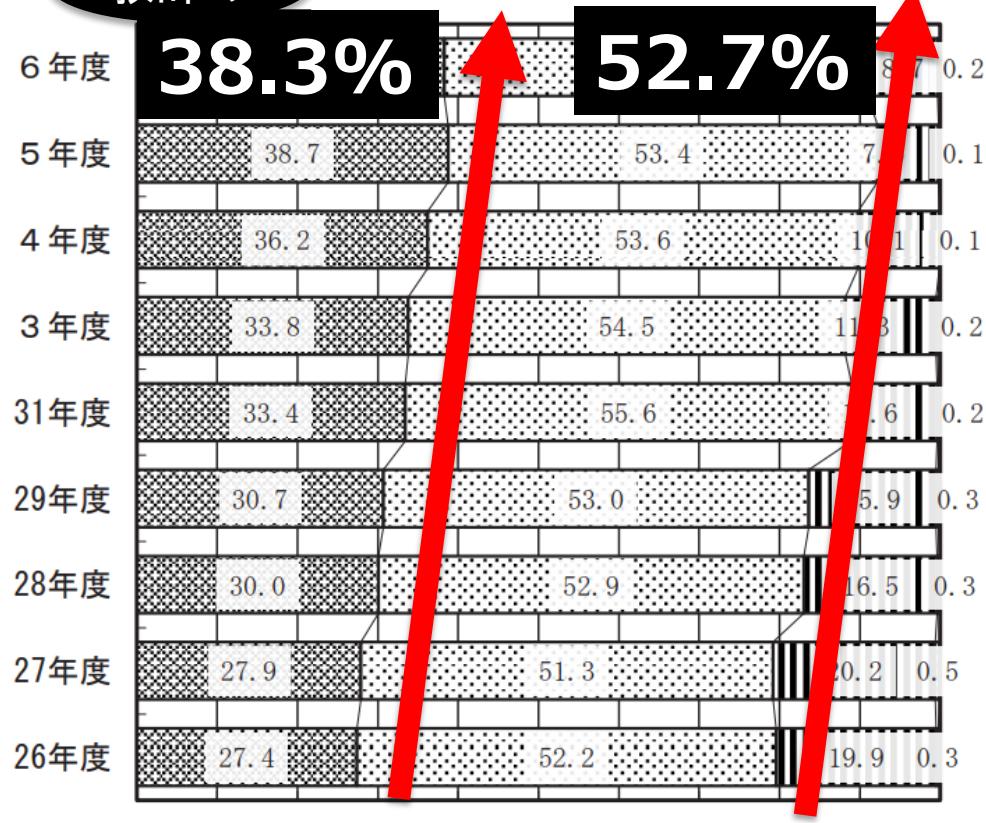
小

教師の



中

教師の



【出典】令和6年度全国学力・学習状況調査報告書（質問調査）P. 64

正確な質問は「調査対象学年の児童生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか」

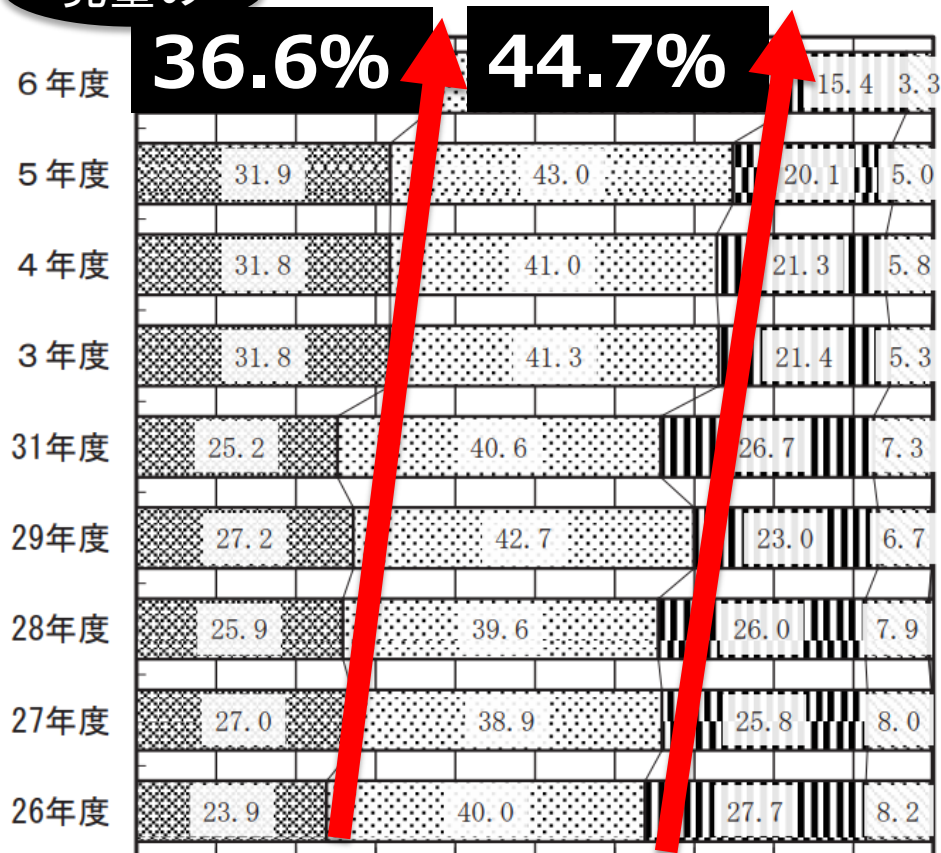
探究的な学習活動に取り組んでいますか？

「当てはまる」生徒は増加傾向（3～4割）

（「どちらかといえば、当てはまる」を含めると8割超）

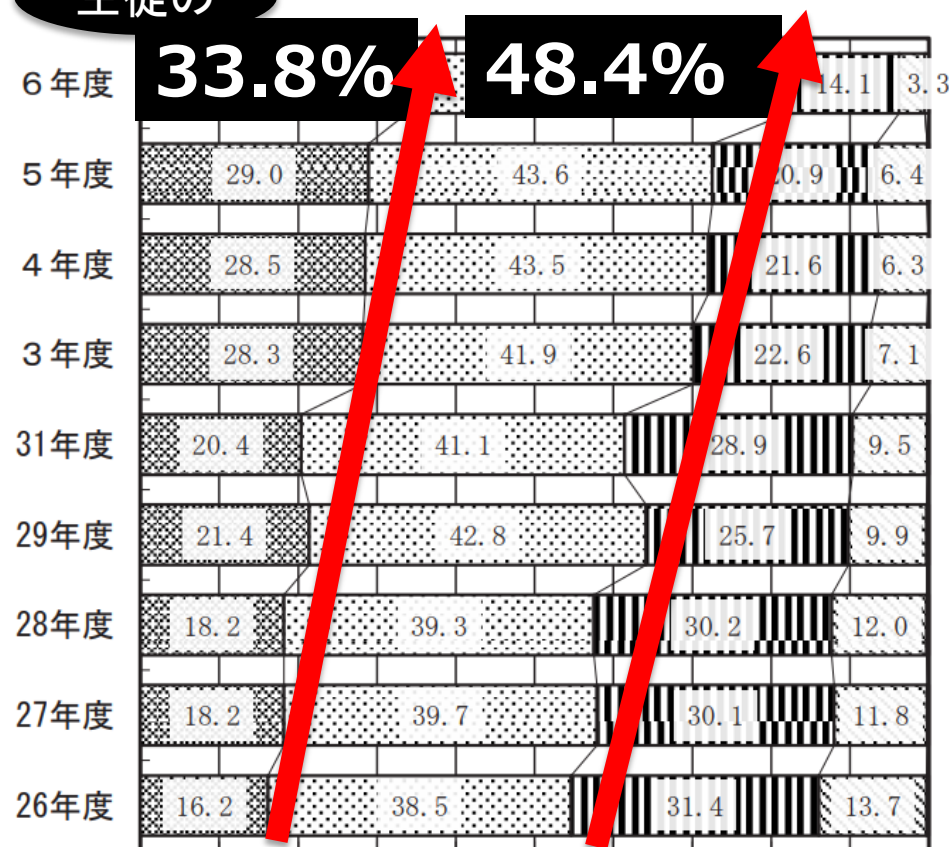
小

児童の



中

生徒の



【出典】令和6年度全国学力・学習状況調査報告書（質問調査）P. 35

正確な質問は「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」 6

2. 国際的潮流と社会状況の変化

OECD「カリキュラムの（リ）デザイン」報告書

各国共通で時代を経ても変わらないカリキュラムデザインをガイドする原則（抄）

⑤ 教科横断性（INTERDISCIPLINARITY）

- （略） 題材や概念が単一または複数の教科でどのように他の題材や概念と関連づけられるのか、また学校の外でも応用できるのかを子どもが気づくことができるようにするものです。
※日本の総合的な学習（探究）の時間を好事例として紹介

⑦ 真正性（AUTHENTICITY）

- 真正なカリキュラムとは、それが適切に用いられたとすれば、実社会とのつながりや交流の機会を作り出すものです。（略）カリキュラムの学習内容が真正である時、子どもたちは自分の興味、環境、そしてニーズに関連する現実的で適切な課題の探究が行える学びを経験します。

⑪ 生徒エージェンシー（STUDENT AGENCY）

- （略） 子どもたちに自身の学びに対するオーナーシップを感じられるようにします。子どもは、権限を与えられ、エージェンシーを認められるとき、何をいつ、そしてどのように学ぶのかに関して影響を与え、決定することができるようになり、それぞれの将来に向けて意味のある力を身につけるのです。

探究的な学びは、生成AIが苦手な部分と親和性

人間が得意なこと VS 生成AIが得意なこと



変化の激しい時代×人生100年時代

- 働く期間が長くなる
- マルチステージの時代へ



従来

3ステージ制
(教育・勤労・引退)



今後

マルチステージ制
(仕事から教育への再移行)



Explorer

自分の生き方に関して考える時
知識やスキルの再取得
(職業訓練・学び直しなど)

Independent producer

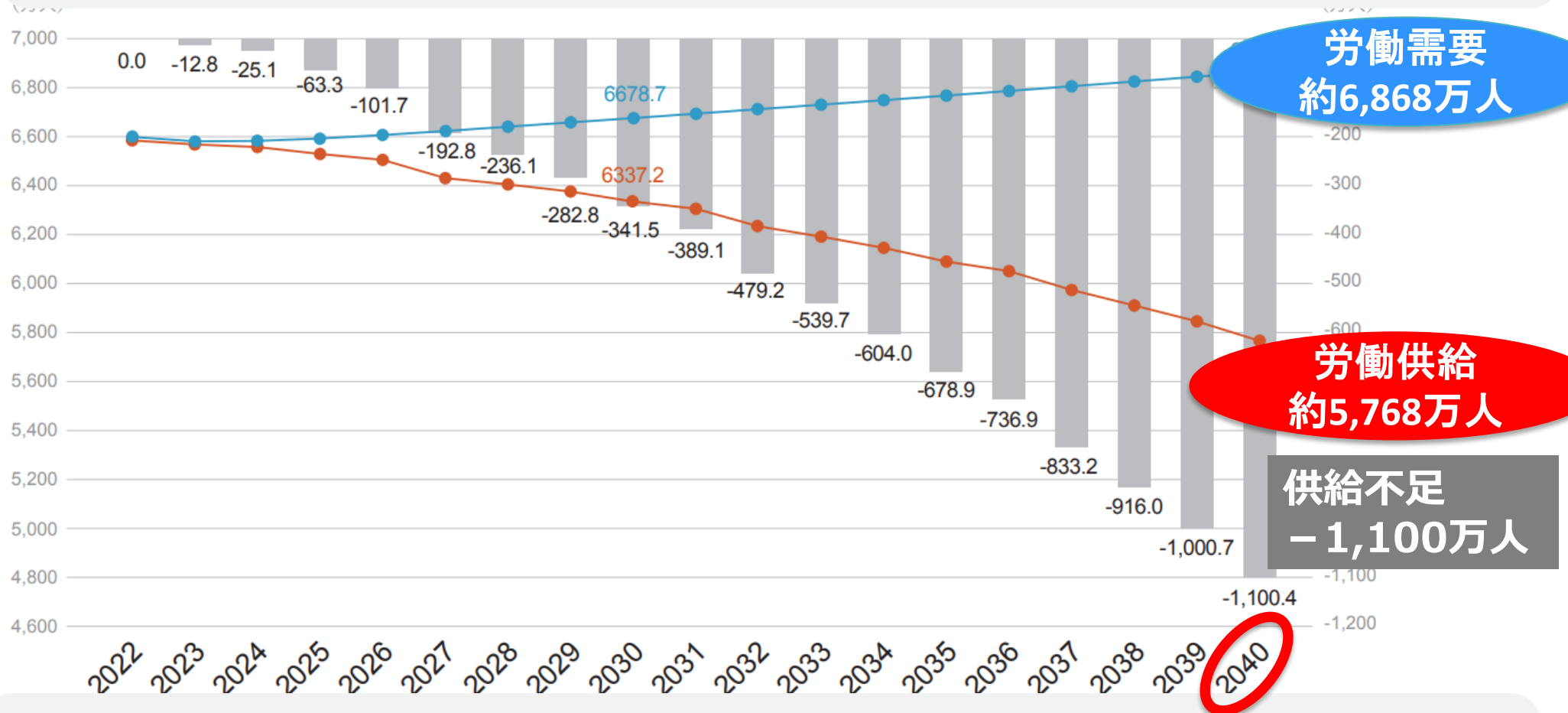
組織に雇われず、独立した立場
で生産的な活動に携わる人
(フリーランスなど)

Portfolio stage

異なる活動を同時並行で行
う(例) 週3仕事、週1ボランティ
ア、週1NPO活動など

(出典) リンダ・グラットン著『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』より作成

＜労働供給制約社会＞ 2040年、1100万人も人が足りなくなる



企業寿命短く ⊕ 人生&職業寿命は長く ⊕ 構造的人材不足
 ➡ 個人の主体的選択により働き方・生き方を決める割合が増えるとの指摘も

諮問で掲げられた教育課題と 探究的な学びの可能性

1. 教育課題をめぐる探究的な学びの可能性
2. 子供への意見聴取結果
3. 高大の学び×幸せな活躍

1. 教育課題をめぐる探究的な学びの可能性

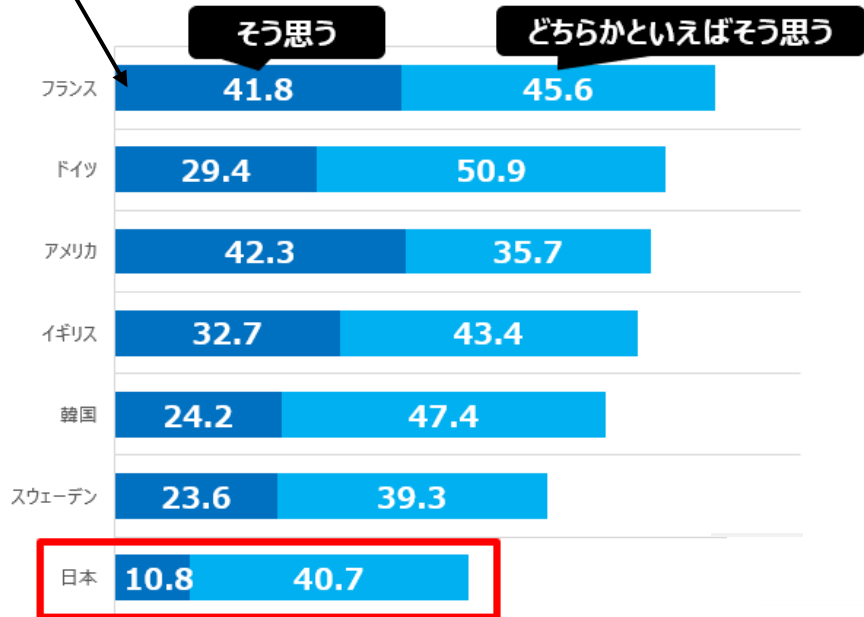
R6全国学調

「探究的な学び」に取り組む児童生徒は、授業で「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」割合が高い傾向

全般的な傾向

(うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む子が少ない)

「うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む」と回答している児童生徒の割合

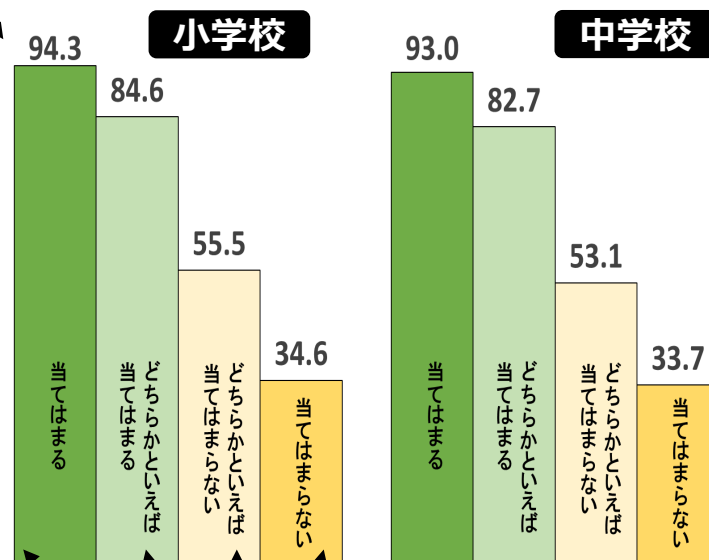


「次のことがらがあなた自身にどのくらいあてはまりますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。」の設問のうち、「(e) うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む」

総合で探究的に学んでいる子

(課題の解決に主体的な子が多い)

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答している児童生徒の割合



総合で探究的に学んでいる

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」

※傾向とは、事実関係を記述したものであり、因果関係を示すものではない。

(出典) 令和6年度全国学力・学習状況調査12

(出典) 我が国と諸外国の若年の意識に関する調査(平成30年度)
(令和元年6月 内閣府) ※各国満13歳から満29歳までの男女が対象

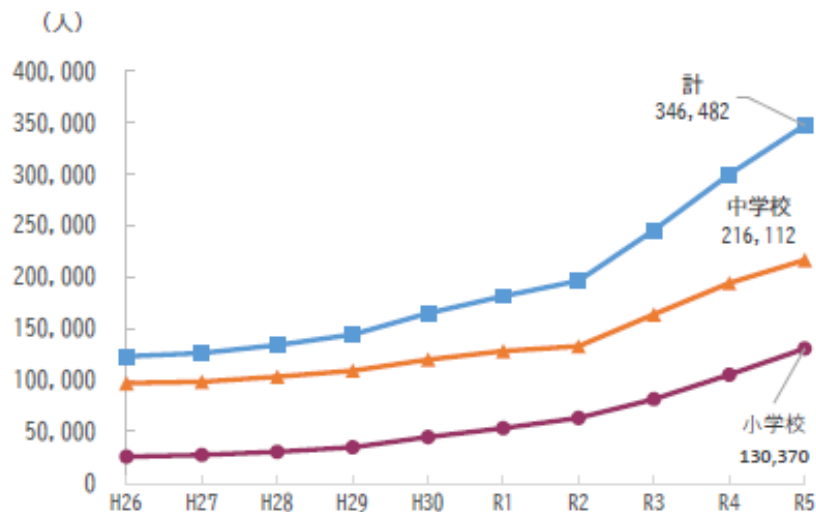
「探究的な学び」は 不登校の子供が「学びたいと思える場所」と親和的

全般的な傾向
(不登校児童生徒が増加)

当事者の声
(好きなこと等を突き詰められる場所で学びたい)

不登校又は不登校傾向にある現中学生と卒業生
(卒業後～22歳)が思う「学びたいと思える場所」

不登校児童生徒数の推移



学校の先生だけでなく、地域の人など、
様々な社会人が先生になってくれる

15.5

クラスや時間割に縛られず、自分で
カリキュラムを組むことができる

33.1

常に新しいことが学べる

37.2

自分の学習のペースにあった手助けがある

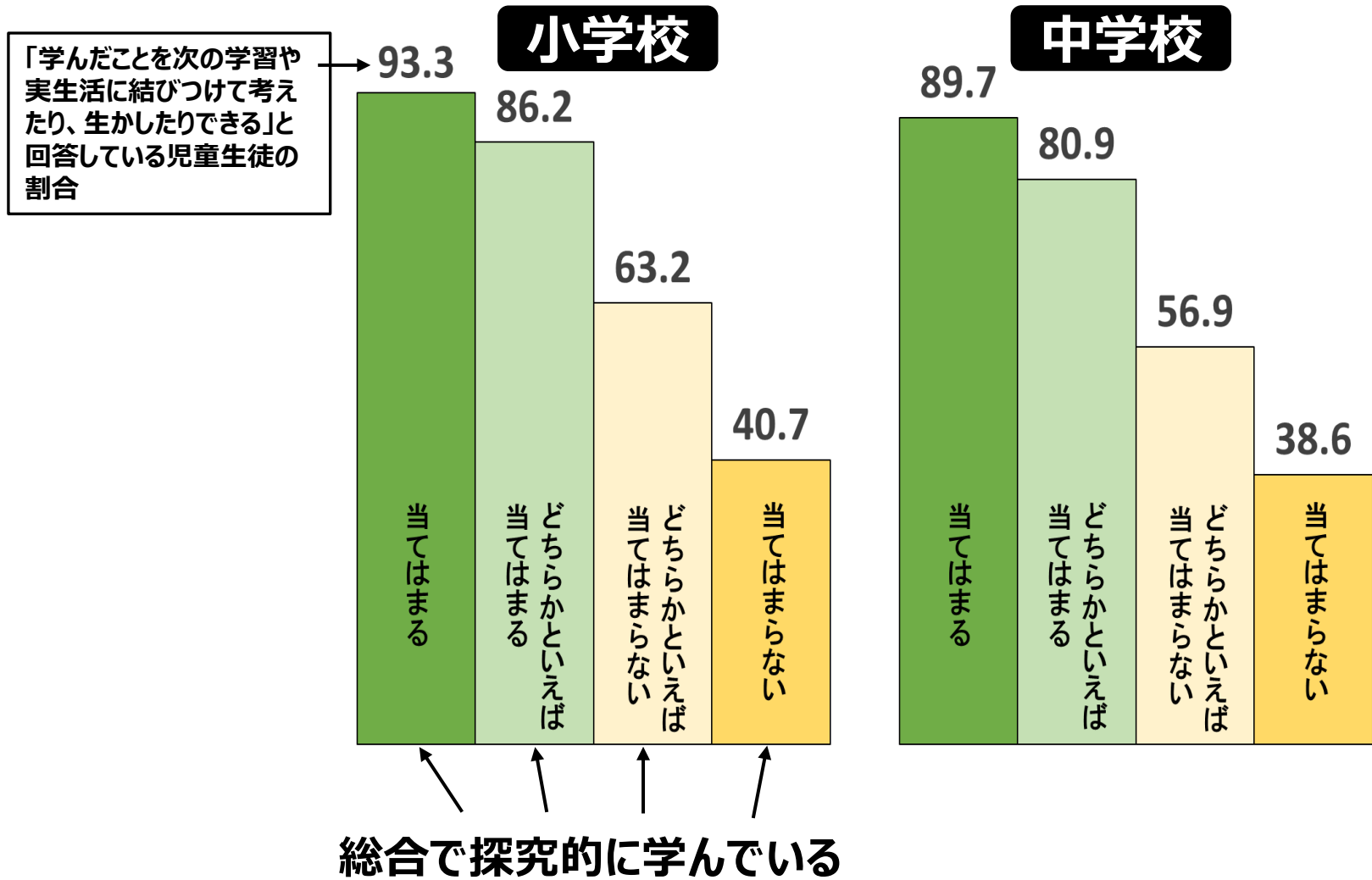
44.6

自分の好きなこと、追求したいこと、
知りたいことを突き詰めることができる

67.6

【出典】日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査（2018年12月）」をもとに作成 49

「探究的な学び」に取り組む児童生徒は、授業で学んだことを「次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりできる」割合が高い傾向



「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」

※傾向とは、事実関係を記述したものであり、因果関係を示すものではない。

「探究的な学び」に取り組む児童生徒は、
「自分の考えをまとめる活動を行っていた」割合が高い傾向

全般的な傾向
(自分の考えを書くことが苦手)

全国学力・学習状況調査では、自分の考えをまとめたり書いたりする問題の正答率に課題が見られる。

小学校・国語

問題の概要	出題の趣旨	正答率	無回答率
「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 でどのように話すかを書く（R4）	互いの立場や意図を明確にしなが 画的に話し合い、 自分の考え をまとめる	47.8%	3.0%
【川村さんの文章】の空欄に学校の米 作りの問題点と解決方法を書く（R5）	図表やグラフなどを用いて、 自分の考え が伝わるように書き表し方を工夫する ことができるかどうかをみる	26.8%	7.0%
資料を読み、運動と食事の両方につい て分かったことをもとに、自分ができそ うなことをまとめて書く（R5）	文章を読んで理解したことに基づいて、 自分の考え をまとめることができるかど うかをみる	56.4%	8.4%

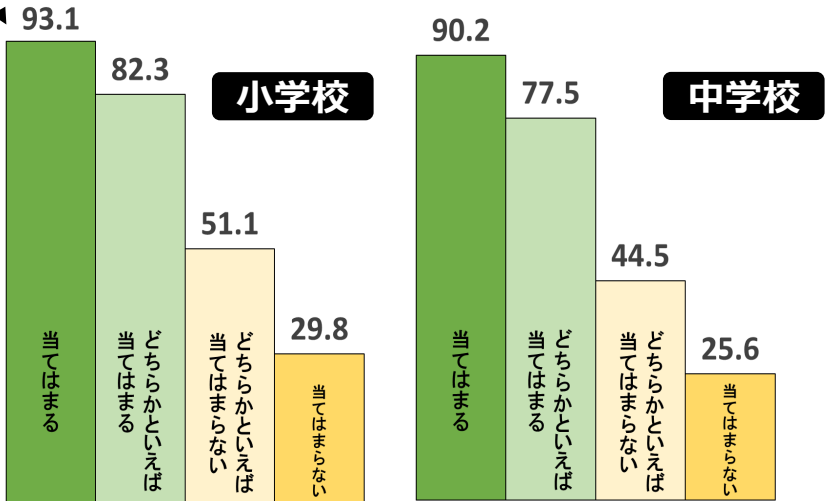
中学校・国語

問題の概要	出題の趣旨	正答率	無回答率
参加者の誰がどのようなことについて発 言するとよいかと、そのように 考えた理 由 を書く（R3）	話し合いの話題や方向を捉えて、 話す内 容を考える	57.5%	3.3%
農林水産省のウェブページにある資料 の一部から必要な情報を引用し、意 見文の下書きにスマート農業の効果をも 書き加える（R4）	自分の考え が伝わる文章になるように、 根拠を明確にして書く	46.5%	8.8%

出典：R3～R5 全国学力・学習状況調査 8

総合で探究的に学んでいる子
(自分の考えをまとめる活動を行っていた子が多い)

「各教科などで学んだことを生
かしながら、自分の考えをまと
める活動を行っていた」と回答
している児童生徒の割合



総合で探究的に学んでいる

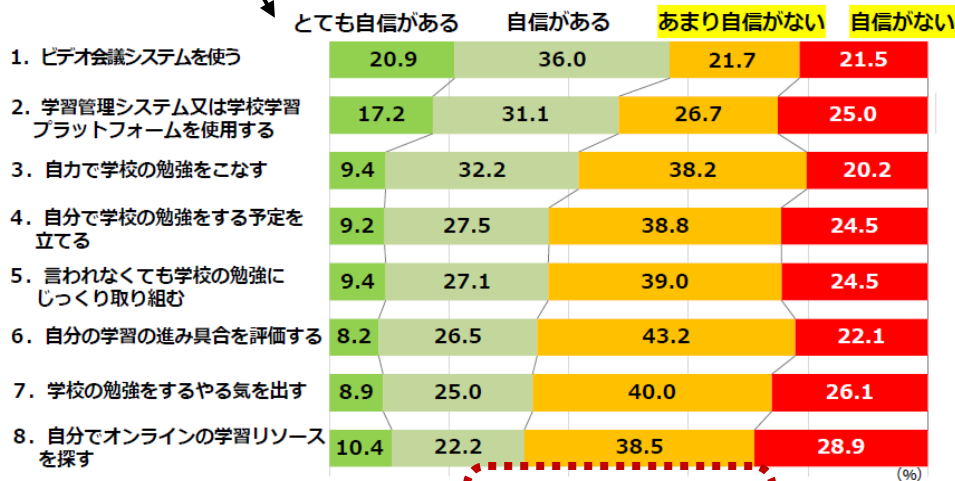
「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、
調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」

※傾向とは、事実関係を記述したものであり、因果関係を示すものではない。

「探究的な学び」に取り組む児童生徒は、 「自分で学び方を考え、工夫できる」割合が高い傾向

全般的な傾向 (自律的に学ぶ自信がない)

学校が再び休校になった場合に
自律学習を行う自信があるか

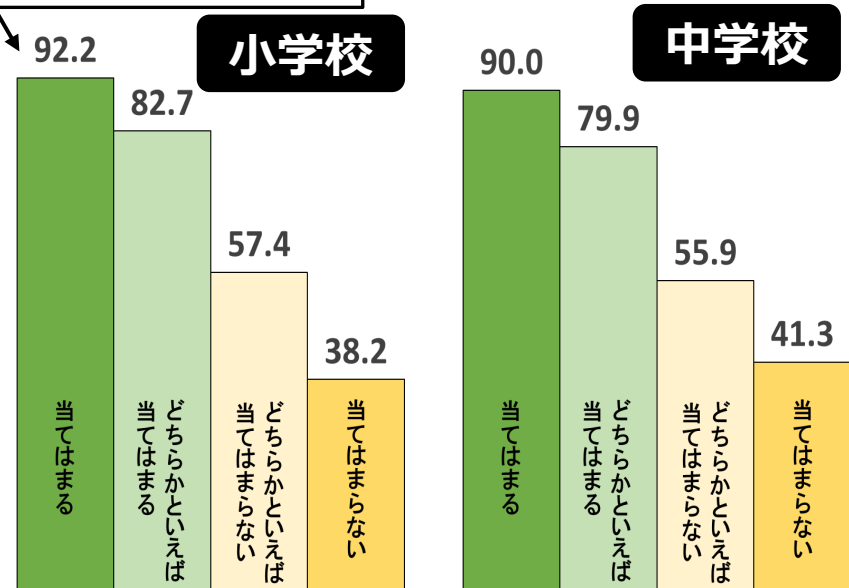


上記8項目を指標化して比較
※OECD加盟国37か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、値が大きいほど、自律学習に対する自己効力感(自信)が高い。

OECD平均	0.01
日本(34/37位)	-0.68

総合で探究的に学んでいる子 (自分で学び方を考え、工夫できる子が多い)

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と回答している児童生徒の割合



総合で探究的に学んでいる

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」

※傾向とは、事実関係を記述したものであり、因果関係を示すものではない。

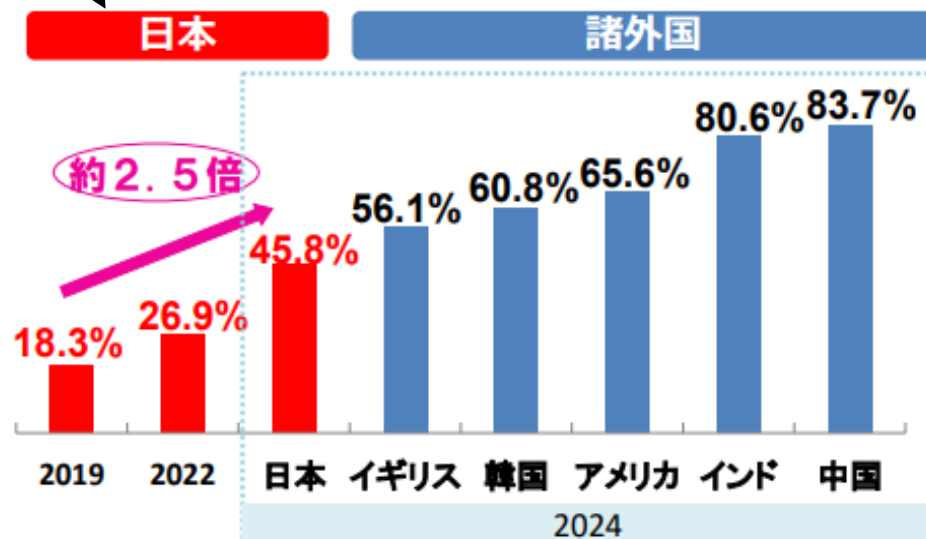
(出典) 文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度評価 PISA2022のポイント」をもとに作成

「探究的な学び」に取り組む児童生徒は、 「地域を良くするために何かしてみたいと思う」割合が高い傾向

全般的な傾向

（社会参画意識は改善傾向だが依然課題）

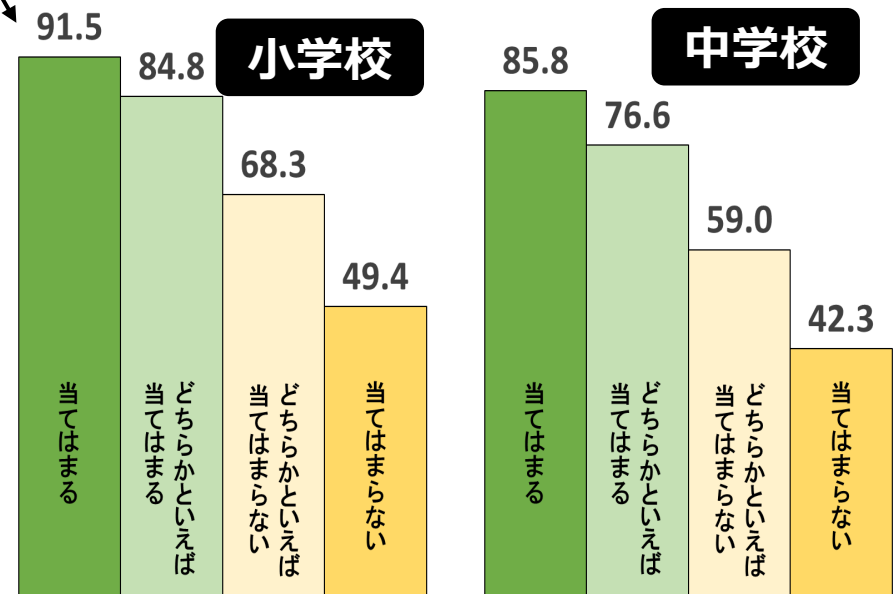
「自分の行動で国や社会を変えられと思う」（※1）と回答している児童生徒の割合



（※1）「同意」、「どちらかといえば同意」の回答率

総合で探究的に学んでいる子 （地域のために何かしたい子が多い）

「地域や社会をよくするために何かしたいと思う」と回答している児童生徒の割合



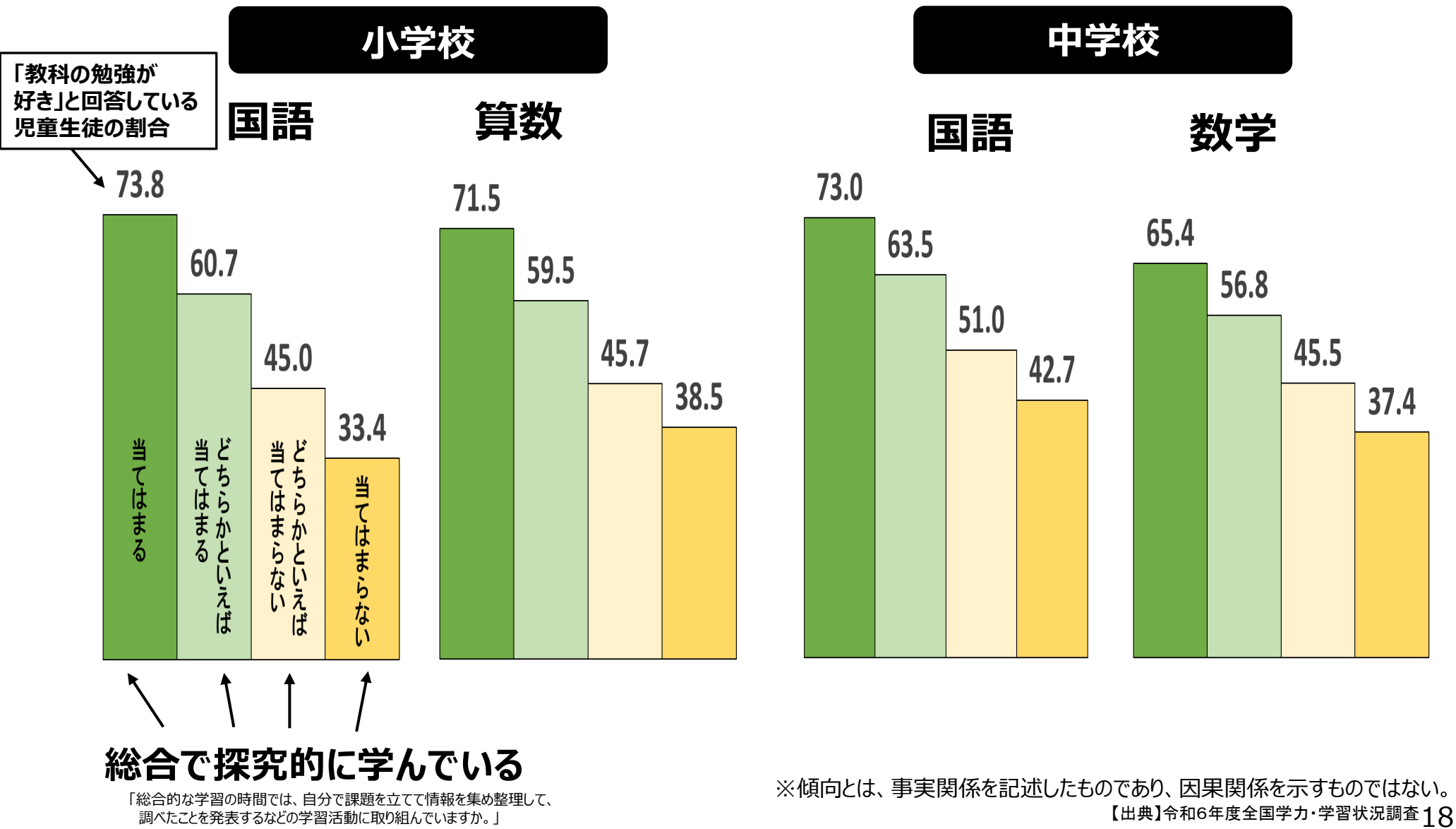
総合で探究的に学んでいる

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」

※傾向とは、事実関係を記述したものであり、因果関係を示すものではない。

（出典）令和6年度全国学力・学習状況調査 17

「探究的な学び」に取り組む児童生徒は
「教科の勉強が好き」な割合が高い傾向



2. 子供への意見聴取結果（関連部分の抜粋）

テーマ：みなさんが願う人生や社会にするために、学校でどんな学びが大切ですか？



○ ワクワクした授業やその理由は何ですか？

- ・ 小学4年生の総合の授業で、車いすの使い方を勉強した。おもしろくてためになると思った。
- ・ **総合の授業が好き**。みんなで何かをしたり、自分でがんばって資料を集めて作ったりするのが好きだから。
- ・ **総合の調べ学習**や美術の何かを作る授業、行事の班決めや調べ学習など、**自分で決めて、調べて、まとめる作業が好きなのでワクワクする**。
- ・ 総合的な学習の中の探究学習の時間。**自分の調べたいものを内発的動機に基づいて調べることができる。大人とも力を合わせて自分が作りたいものを作り上げられる。完成したときはすっきり気持ちがいい**。

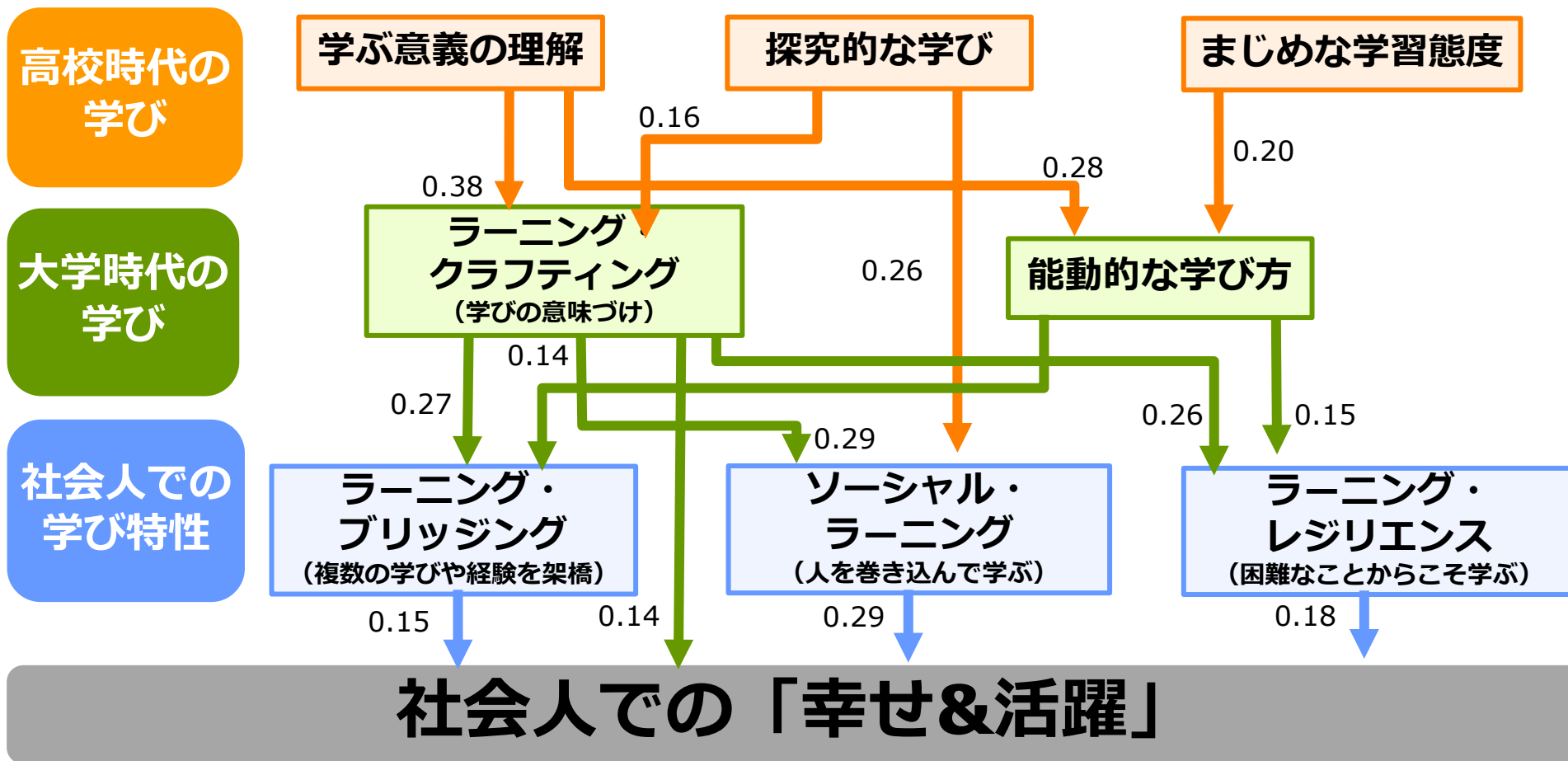
○ 自分の力をつけていくために、どんな授業がよいと思いますか？

- ・ 自分が調べようと思ったことを調べる授業。
- ・ 単に先生の話聞くだけでなく、**自分自身が見つけた課題を周囲の人と協力して解決していけるような環境を整えられると良い**。

3. 高大の学び×幸せな活躍

幸せな活躍をしている社会人の学び特性と高校・大学での学びを分析した結果、

- ① 高校の「学ぶ意義の理解」「まじめな学習態度」が、大学の「能動的な学び」の土台になっていた
- ② 高校の「学ぶ意義の理解」「探究的な学び」が、大学の「学びの意味づけ」に影響していた
- ③ これらをベースに「ソーシャル・ラーニング」を中心とした社会人での学び特性が形成、「幸せな活躍」に繋がっていた



(出典) 中原淳・ベネッセ教育総合研究所・パーソル総合研究所『ハタチからの「学びと幸せ」探究ラボ調査分析結果(2025年2月19日)』より作成。 全国の25-35歳の就労者 2000名対象
※ 学びのスタイル→身につけた資質・能力のパス解析 カイ2乗値: 267.06(df=15, p=0.000) GFI=0.972, CFI=0.971, RMSEA=0.092 ※パスの数値は標準化回帰係数、共分散、誤差間共分散は省略
※ R²=0.38 は38%の変動が説明変数によって説明される意

情報活用能力との関係

1. 探究的な学び×情報技術の効果的な活用で期待できる質の高まり
2. 生徒・教師を対象とする調査の結果

1.探究的な学び×ICTの活用で期待できる質の高まり



①課題の設定

多様な課題に出会うことができる
データ等で課題を明確化し、課題解決の見
通しを鮮明にできる

②情報の収集

多種多様な大量の情報を、高速に、時
間や空間を超えて収集・蓄積できる

③整理・分析

多様で大量で複雑な情報の整理や、整理
した情報の加工・分析が容易になる

④まとめ・表現

豊かな表現を短い時間で作成し、広く発信し
たり、自らの学びを振り返ったりできる



情報技術の活用により探究的な学びの質を向上する取組

(渋谷区の例)

渋谷区教育委員会における取組（授業時数特例校）

～探究×ICT～

- ◆渋谷区では、令和6年度より、未来社会に求められる、自ら課題を設定し、解決策を探る能力を育成するため、「シブヤ未来科」を大幅拡充。
- ◆シブヤ未来科では、自ら考え判断して学び続ける「自己調整力」、多様な仲間と協働して新たな価値を生み出す「創造力」、自分が思い描く未来を実現しようとする「挑戦力」の育成を目指している。
- ◆授業時数特例校制度を活用し、同制度の上限である各教科の時数のうち1割を総合的な学習の時間に当て、午後は探究「シブヤ未来科」の時間としている。

※総合的な学習の時間が70時間 → 155時間（小学校6年）

- ◆シブヤ未来科の実施に当たっては、本区が全国に先駆けて整備を進めてきたICT環境をフル活用している。

	月 ～ 金
午前 1～4校時	教科を中心とした授業 国語、社会、算数・数学、理科など
午後 5～6校時	探究「シブヤ未来科」の時間 - 子ども主体の学び - 総合的な学習の時間、各教科の一部等（探究型の教科単元）

前期・4月～10月

後期・10月～3月

探究基礎・企業等体験
- 30～50時間 -

共通テーマ探究
- 70～90時間 -

My 探究
- 15～35時間 -

探究の道具としてのICT

探究における課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の各段階でMicrosoft365等を活用。



探究を支援するアプリ

探究支援アプリInspire Highを導入し、世界で活躍する人物とのセッションや、日本中の生徒と高め合う機会を提供。



区独自のハチアプリを使い、探究の振り返りや子供同士のフィードバックが可能に。



教員への支援

探究ハンドブックを作成し、タブレットで活用できるワークシートも配布。



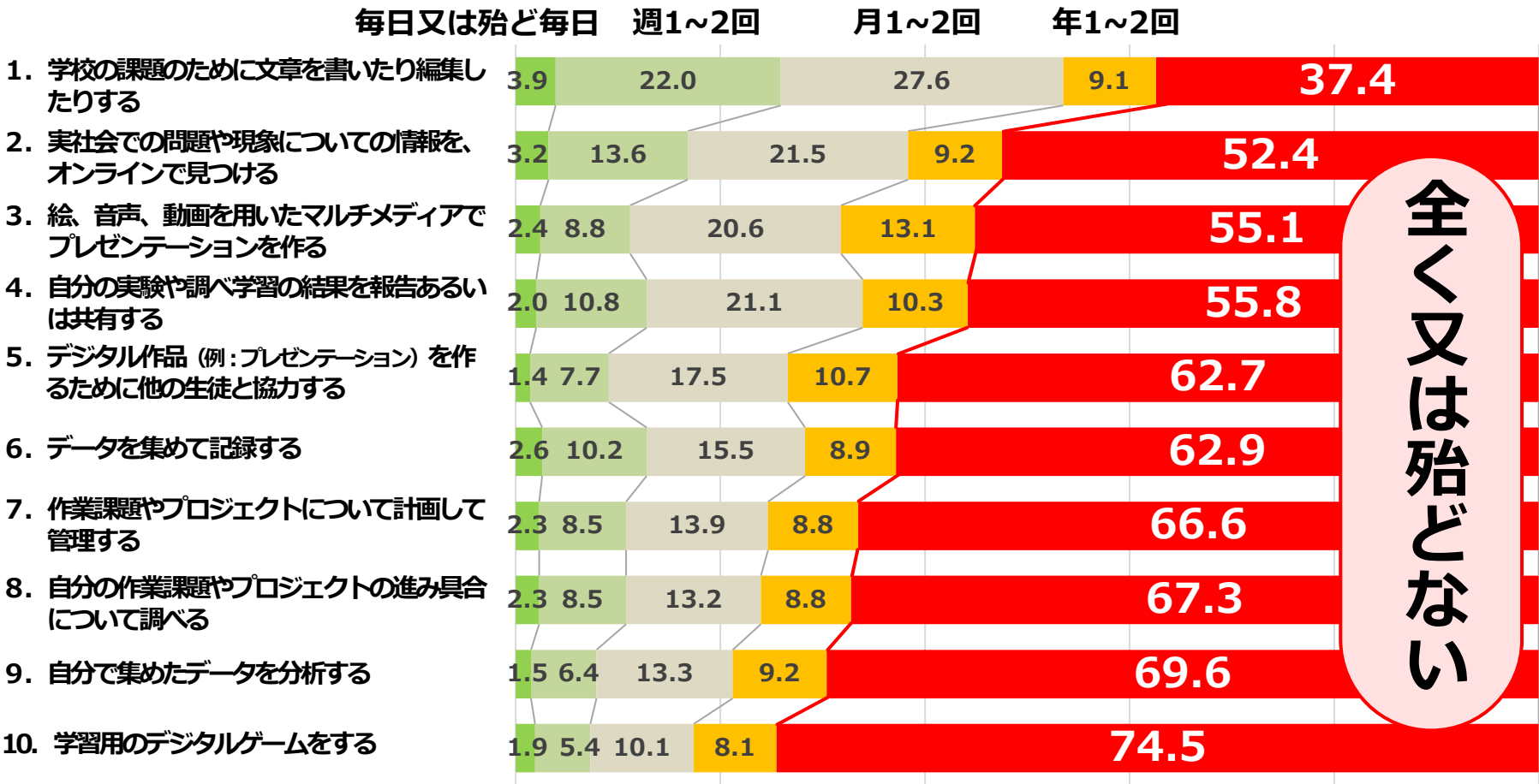
企業・団体とのマッチング支援のため、探究ポータルサイトを開設。



2. 生徒・教師を対象とする調査の結果

PISA2022

探究的な学びにおけるICT活用 諸外国と比較して低位であり、伸びしろがある



全く又は殆どない

➡ 上記10項目を指標化して比較すると…
※ ICT活用調査に参加したOECD加盟国29か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、ICTを用いた探究型の教育の頻度が高いことを意味している。

OECD平均	0.01
日本 (29/29位)	-0.82

1人1台端末の活用の探究的な学習への質的・効率的影響についての調査 (学会等未発表データ, 速報値)

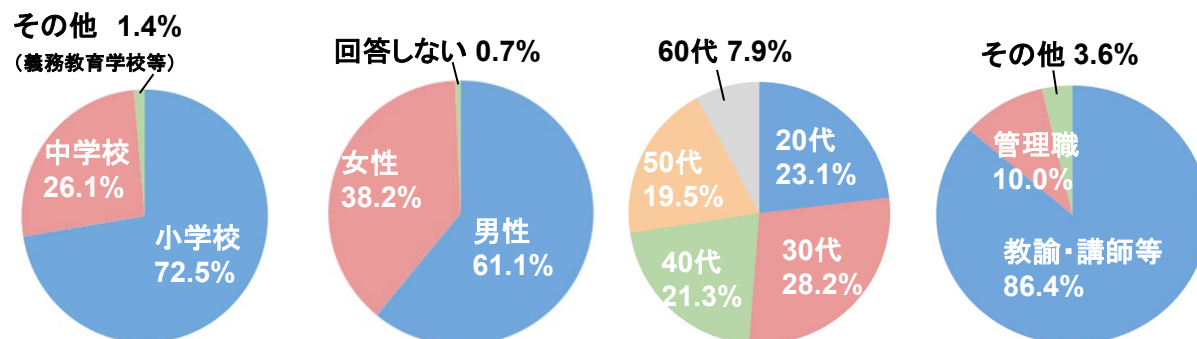
調査対象

全国の公立・私立の小学校・中学校に在籍する教師

回収数

回答数 279人

調査回答者の属性



調査方法・調査項目

Webフォームによる。フェイス項目 (9項目)

- ① 端末がないとできない探究的な活動の時短への影響を問う (14項目)
- ② 端末がないとできない探究的な活動の学習の質への影響を問う (14項目)
- ③ 端末がなくてもこれまでも行われてきた探究的な活動に対する端末の時短への影響を問う (40項目)
- ④ 端末がなくてもこれまでも行われてきた探究的な活動に対する端末の学習の質への影響を問う (40項目)

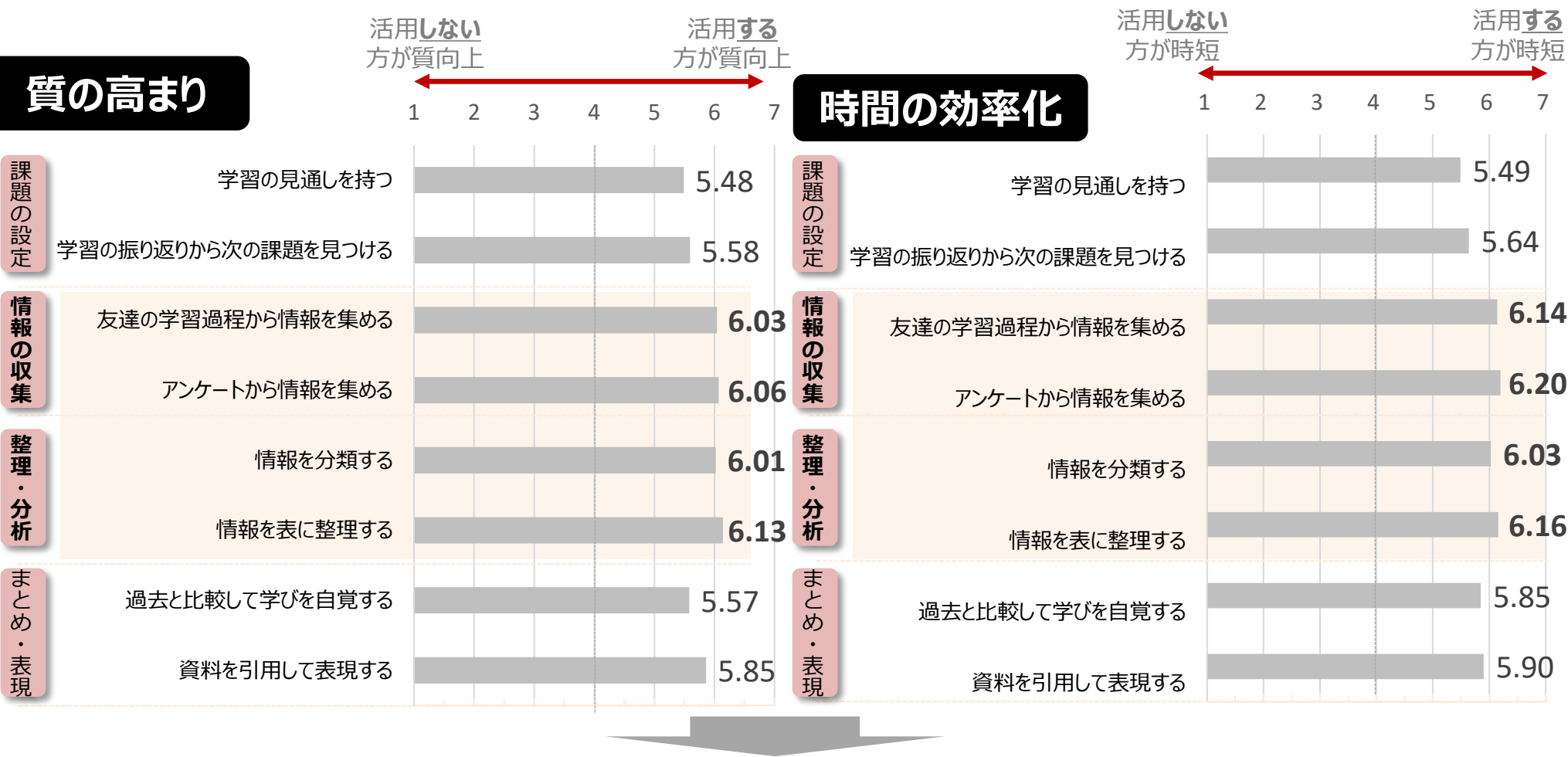
調査期間

2025年4月23日から5月2日までの10日間

(発表予定)

泰山裕, 登本洋子, 佐藤和紀, 堀田龍也: 1人1台端末の活用の探究的な学習への質的・効率的影響の検討. 日本教育工学会研究報告集 JSET2025-2 2025/07/05発表予定 (北海道大学)

- 探究的な活動で端末活用⇒活用なしと比べ、探究の質の高まり・効率化を実感
- 特に「情報収集」「整理・分析」の学習過程でスコアが高い（7点満点で6点以上）



質を低下させず時間短縮も可能とし、探究のプロセスで時間をかけるべきところに時間を確保し、質を高めることが可能に

（出典）泰山裕，登本洋子，佐藤和紀，堀田龍也「1人1台端末の活用の探究的な学習への質的・効率的影響についての調査」結果より作成。2025年4月23日から5月2日までの10日間でWebフォームを用いて全国の公立・私立の小学校・中学校に在籍する279名の教師から回答受領

※：上記表内の値は、これまで行われてきた探究的な学習でよく行われる活動について、1：「端末を活用しない方が質が高まる」～7：「端末を活用する方が質が高まる」、もしくは「端末を活用しない方が時短になる」～7：「端末を活用する方が時短になる」の7段階の選択肢への教師の回答の平均値を指す。それぞれ40ほどの活動についての質問項目があり、紙面上、学習過程ごとに特に値が高い探究活動を中心に抜粋しているが、その他の活動においても値は平均値4以上のポジティブな回答。

端末の活用頻度が高い方が、 探究的な学びの質の高まり・効率化の実感が高い傾向

質の高まり

活用しない
方が質向上

活用する
方が質向上



課題の設定

学習の見通しを持つ



学習の振り返りから次の課題を見つける



情報の収集

友達の学習過程から情報を集める



アンケートから情報を集める



整理・分析

情報を分類する

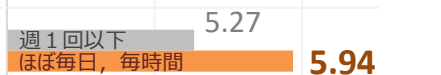


情報を表に整理する



まとめ・表現

過去と比較して学びを自覚する



資料を引用して表現する



時間の効率化

活用しない
方が時短

活用する
方が時短



課題の設定

学習の見通しを持つ



学習の振り返りから次の課題を見つける



情報の収集

友達の学習過程から情報を集める



アンケートから情報を集める



整理・分析

情報を分類する

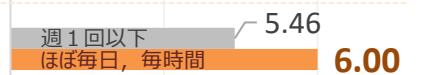


情報を表に整理する



まとめ・表現

過去と比較して学びを自覚する



資料を引用して表現する



質を低下させず時間短縮も可能とし、探究のプロセスで時間をかけるべきところに時間を確保し、質を高めることが可能に

※紙面上、学習過程ごとに値が高い活動のみ抜粋しているが、「ほぼ毎日、毎時間」端末を活用する群は、そうでない群と比べほぼ全ての項目において、質の高まり・効率化ともに実感が有意に高まる傾向にある。

探究的な学びに係る具体的論点

探究的な学びに関わる成果と課題・検討の方向性

1. 総合のこれまでの成果

- ① 総合的な学習の時間（以下「総合」）創設から約30年が経過し、積極的に取り組む教師・児童生徒が増加傾向。地域課題の解決や地方創生に寄与する例も生まれている。
- ② 探究的な学びに積極的に取り組んだ児童生徒は、全国学調において様々なアンケート項目にも肯定的に回答。
- ③ 児童生徒が探究の成果を発表するステージも、官民双方で広範に展開される、高校・大学入試で積極的に評価する等、社会全体で探究を応援する機運が醸成されてきている。

2. 総合の直面する主な課題

- ① 小中では、総合に積極的に取り組む教師・児童生徒は増加傾向であり、高校では「総合的な探究の時間」と名称変更し、改善に一定程度寄与。
- ② 一方で、小中高全体として、カリキュラムの設計に困難を感じる、授業が調べ学習で終わってしまう等の声も聞かれ、育成を目指す学びの姿が十分な共通認識に至っていないとの指摘もある。探究と相性のよいICTの活用の伸びしろを示唆するデータもある。
- ③ 総合を探究的な学びの中核と位置づけた趣旨は、教育目標の具現化とともに、各教科等でも探究の要素を持つ学習が一定程度行われ、双方が有機的に連動することであり、各教科等の連携には更なる改善の余地がある。
- ④ 探究テーマとして、職業や福祉、国際理解が多いが、ものづくりや科学技術が少ない等、偏りが見られる。また、学校で設定した総括的テーマが重視され、個人の興味関心が十分に考慮されていない例も見られる。

3. 検討の方向性

- ① 生成AIが更に発展し、人間の意思が一層重要になる時代に向け、思考や行動・好奇心の芽を一層大切にするとともに、他者との対話や協働、自己調整を通じて好きや得意を伸ばし、夢や希望を育み、自らの人生を舵取りする力に繋げていく取組を一層重視すべきではないか。
- ② 総合を中核とした探究的な学びは、自ら課題を設定し、解決に向けて取り組む中で、自己の生き方や在り方を考えていくもの。その充実、知識・技能や思考力・判断力・表現力等の伸長のみならず、学びに向かう力・人間性等の涵養に大きな役割を果たす潜在性を有しているのではないか。



- 引き続き、総合を中心としつつも、各教科等との連携も明示的に含めた形で、探究的な学びの一層の充実・改善を検討してはどうか。
- その際、いわゆる「デジタル技術の民主化」により、様々な課題解決に情報技術の活用が不可欠となってきたことを踏まえ、デジタル学習基盤を探究を支える基盤としても十分に機能させ、リアルな身体性を大切にしながら探究プロセスを自ら駆動できるようにする方向で、教育課程の枠組の改善を検討してはどうか。
- 加えて、このような改善に当たっては、デジタル技術が認知や行動に与えるリスクに十分な対処する観点も含め、生成AI等を含めた先端技術の特性理解を基に、情報モラルやメディアリテラシー等を併せて育む方向で検討してはどうか。
- 以上の改善も踏まえつつ、探究が①②に示した役割を十全に果たせるよう、総合が目指す学びについて、発達段階に応じた示し方等を検討してはどうか。



具体的論点①（質の高い探究的な学びの実現）

総合を中核としつつ各教科等も含めた形で探究的な学びを一層重視するとともに、質の高い探究に不可欠な情報活用能力の諸要素を教育内容として明記し、一体的に向上させる方向で検討してはどうか（詳しくは専門のWGで議論を深める）

1. 小学校段階

- 教育課程上の位置づけとしては、情報技術の活用の可能性が最も大きく、体験的な活動が充実している総合において、情報技術の適切な取扱いや特性の理解の基礎も含めて、探究的な学びと一体的・重点的に指導できるよう、情報活用能力を育む領域を付加してはどうか。
- その際、情報技術の学習自体が総合の目的であるとの誤解を受けないよう、「自ら課題を設定し、解決に取り組むことを通じて自己の生き方を考えていく」という探究的な学びの特質が十分に発揮されるよう配慮してはどうか。

2. 中学校・高等学校段階

- 小学校段階での一定レベルの情報活用能力の育成を前提とすれば、総合ではなく、現行の技術・家庭科（技術分野）を主たる受け皿と想定し、生成AI等の先端技術を含めた適切な取扱いや特性の理解を学び、総合をはじめ各教科等での探究的な学びのプロセスに活かしてはどうか。
- こうした観点から、中学校では、技術・家庭科を二つの教科に分離した上で、現行の技術分野において情報技術をより深く、広く学ぶこととしつつ、情報（D）領域のみならず、A～C領域でも情報技術との関連を強化し、全体として「ものづくり」と実生活・実社会を繋げる探究的な学びを充実させてはどうか。
- 高校では、小学校・中学校の系統性を踏まえて情報科の内容を充実しつつ、総合や各教科等での情報技術を基盤とした探究的な学びとの関連を図ってはどうか。また、学校設定教科・科目の活用等、総合と他の科目との組み合わせなどにより、一層柔軟に探究の充実を図れるようにしてはどうか。

3. 小中高を通じて

- 約30年にわたる総合の実践の蓄積等を踏まえ、「問い」や「課題」の設定の質をはじめとする探究のプロセスの改善を含め、学校種ごとの総合の「目標」等について、発達段階を踏まえた示し方を検討すべきではないか。その際、新たな枠組みの全体像も踏まえ、小・中学校での総合の名称についてどう考えるか。
- グループでの探究と個人探究とのバランスやテーマ設定の偏りについて、発達段階や情報活用能力の向上も勘案し、どのように考えたらよいか。



4. その他条件整備

- 探究的な学びに必要な時間の確保に資するという意味でも、①情報技術の活用や、②教育課程の柔軟化により余白を生み出すこと、③指導要領の構造化や教科書の分量の精選を進めていくべきではないか。
- 個々の児童生徒の思いや願い・好奇心に基づく探究の質の向上及び学校のカリキュラム設計の負担軽減が必要。また、探究のフィールドが外部に広がる中、社会の理解を促進する観点から、外部に協力を求める場合の基本的な留意事項等も必要ではないか。
このため、これまでの実践の蓄積を可視化する形で、教員や児童・生徒が自由に参照できる参考資料をデジタル技術も活用して作成すべきか。
- 探究的な学びへの支援や成果の発表の場ともなる外部のイベント等について、国としても更なる振興を図ってはどうか。
- 中学校技術については、策定済の指導体制に係る改善計画を着実に履行するとともに、全面実施を待たず、指導主事を含めた研修機会の拡充や環境整備の推進など総合的な支援を行ってはどうか。【5/12再掲】
- 技術の進展に伴い、教育内容が妥当性を失うことを防ぎ、教師の過度な負担を避ける観点から、現場が手軽に使える動画教材などを国が提供してはどうか。【5/12再掲】
- 上記に加えて、地域人材や企業等との連携の可能性も検討すべきか。【5/12再掲】
- 情報技術の加速度的な進化に対応した指導内容の刷新を図る観点から、教科書検定のサイクルを念頭におきつつ、学習指導要領解説の一部改訂をタイムリーに行うことを検討すべきか。【5/12再掲】
- 教科書でも対応しきれない変化が見込まれることから、国が必要に応じて指導の手引きやデジタル教材等を提供すべきか。【5/12再掲】

「学習の基盤となる資質・能力」の課題と整理の視点

- 「学習の基盤となる資質・能力」は、各教科等の日々の学習や生涯にわたる学びを基盤として支える資質・能力
現在は「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」の3つが位置づけられているが、以下の課題

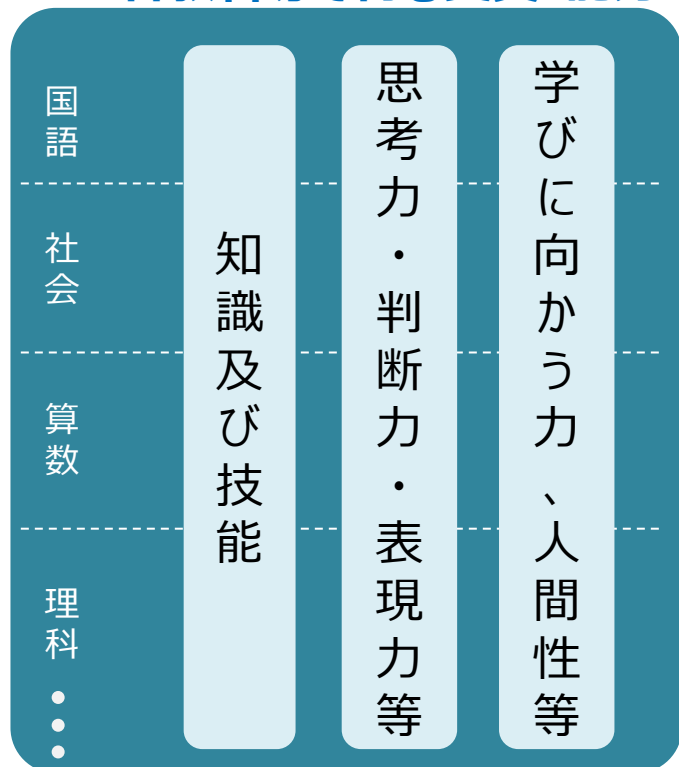
- ① 「情報活用能力」➡ 情報及び情報技術を適切に活用する力とされているが、社会でのデジタル技術の普及やGIGAスクール構想の進展等を踏まえると、情報技術を介さない情報活用(※)については具体的なイメージが持ちにくい、言語能力との重複があるとの指摘

※ 情報機器を用いない情報の整理・分析や情報の変化の傾向の把握など

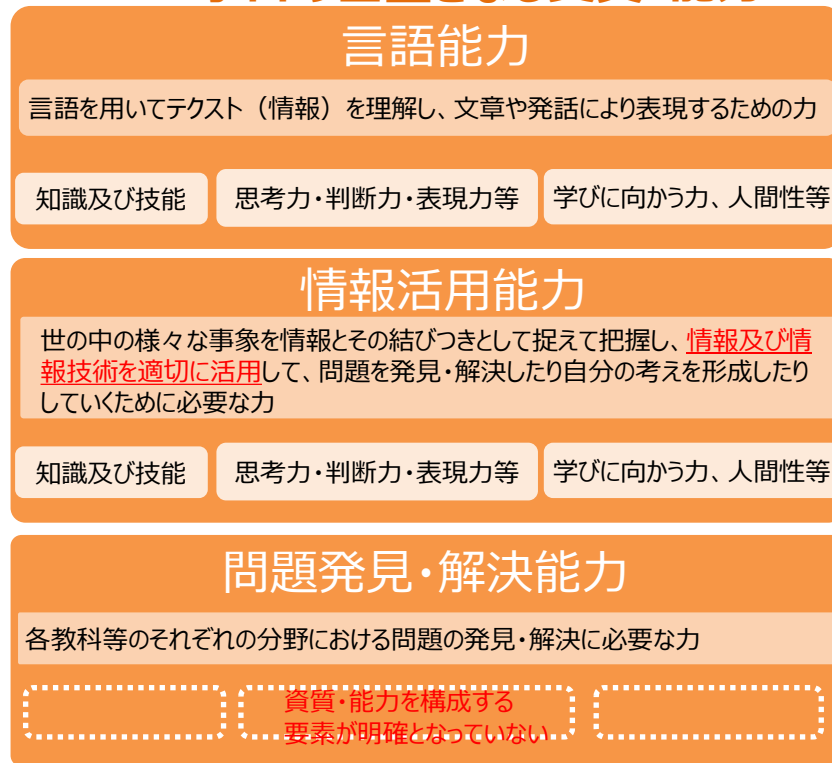
- ② 「問題発見・解決能力」➡ 情報活用能力・言語能力との重複が見られるほか、考え方としては重要でも、資質・能力の具体や育成のための実践が必ずしも明らかでなく、具体的な実践に結びつきにくいとの指摘

➡ 「分かりやすく、使いやすい」学習指導要領を目指すため、各教科等の学習の基盤として、発揮可能な資質・能力を明確にでき、教育実践に落とし込める具体性を有したものに整理してはどうか。

各教科等で育む資質・能力



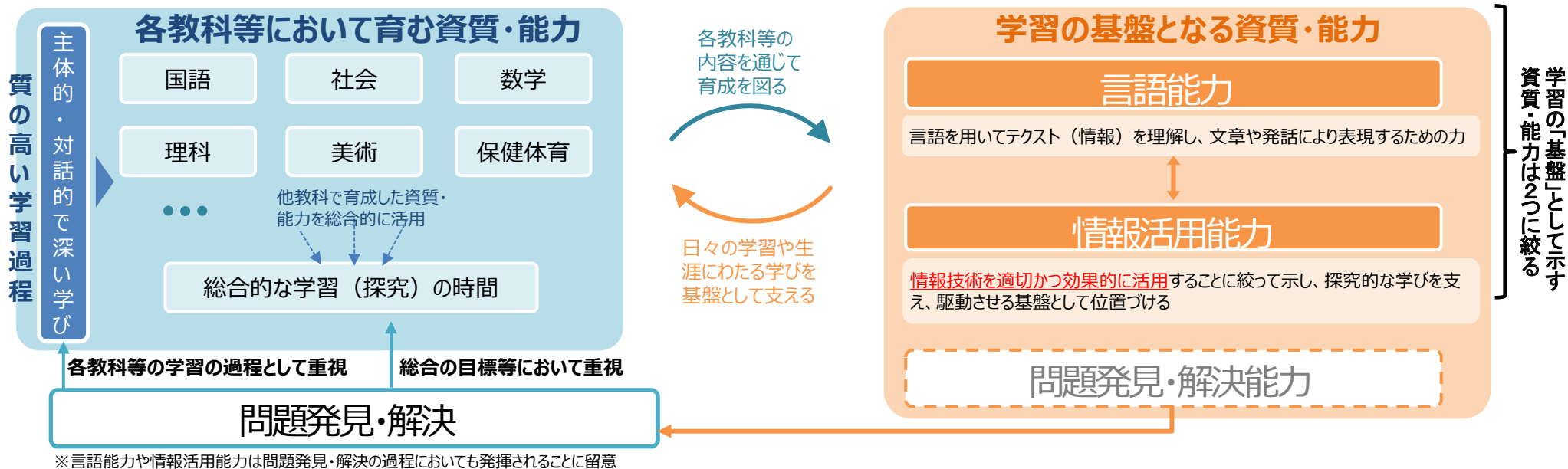
学習の基盤となる資質・能力



「情報及び情報技術の活用」とあるが、情報技術を介さない情報活用の具体的なイメージを持ちにくい

考え方としては重要でも、資質・能力の具体や実践の在り方が明らかとなっていない

「学習の基盤となる資質・能力」の今後の整理イメージ（案）



＜問題発見・解決能力＞

- ① 児童生徒が取り組む課題に伴って能力の具体が変わるものであり、全ての学習の「基盤」として発揮可能な資質・能力をあらかじめ明確化することは困難
 - ② また、こうした力は、本人にとって意義のある文脈で質の高い問題発見・解決を繰り返す中で発揮できるようになるものであり、そうした文脈から切り離して育成することは難しいとの指摘もある
 - ③ 一方、各教科等で培った資質・能力を総動員し、個々の関心等に応じて様々な問題を発見し解決していく力を育む重要性は増している
今般検討している探究的な学びの充実は、「問題発見・解決」の要素と不可分一体（論点資料「3. 検討の方向性」）
- ➡ 「学習の基盤となる資質能力」として示すのではなく、総合の目標や発達段階に応じた示し方を検討する中で、問題発見・解決の要素を重視するとともに、各教科等の学習の過程で問題発見・解決が重視されることを示してはどうか

＜情報活用能力＞

- ① 現在「情報及び情報技術を活用」する力となっているが、言語能力との重複があるとの指摘
 - ② 現代社会で情報技術を介さない情報活用に係る能力の育成は実践イメージが持ちにくい
- ➡ 今般の情報教育の充実を契機に、学習の基盤となる資質・能力としては「情報技術の活用」に絞って示してはどうか（「情報の活用」は各教科等の特質に応じて指導）
- ➡ 各教科等のみならず、探究的な学びを支え、駆動させる基盤として位置づけてはどうか

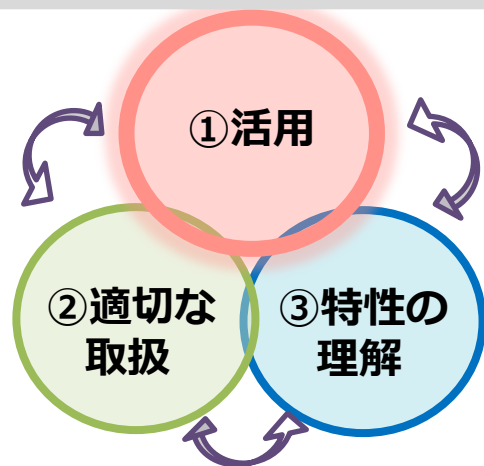
＜言語能力＞

- 全ての学習を支える基盤として重要な役割を果たしている
- ➡ 現行の整理を前提としつつ、見直しが必要な部分がないか検討してはどうか

➡ これらのことを前提としつつ、学習の基盤となる資質・能力の全体について、今後WG等において詳細に整理することとしてはどうか。

探究的な学びの基盤となる情報活用能力の整理（前回の議論を踏まえたイメージ）

1. 情報活用能力を構成する各要素の関係を以下のとおり整理してはどうか



- 情報技術を自由自在に活用し、自らの人生や社会のために課題解決や探究ができる力がこれからの時代を生きる上で不可欠であることから、「①活用」を情報活用能力の中核的な構成要素と整理
- 「①活用」する力を発揮するためには、併せて認知や行動に与えるリスクに対応する「②適切な取扱い」が必要となること、仕組みや背景を含めた情報技術の「③特性の理解」によって、より効果的な活用や適切な取扱いが可能になることを踏まえ、②③を①を発揮するための構成要素と整理。

2. 上記整理に基づき、概ね以下のようなイメージで発達段階に即した学習活動を検討してはどうか

- ✓ 小学校段階………体験的な活動を重視し、「①活用」を中核としながら、「②適切な取扱い」、「③特性の理解」と相まって培う
- ✓ 中学校段階以降…各要素の内容を深めつつ、より抽象的・科学的な理解を必要とする「③特性の理解」を一層重視

小学校（総合・情報の領域（仮称））

低学年

- 写真・動画を撮影する

- ルールを守って大切に使う

（活用を通して体験的に学ぶ）

中・高学年

- インターネット等で情報収集する
- 表やグラフを作成し整理・分析する
- スライドを見やすく工夫して表現する

情報技術の基本的な操作及び情報技術を活用し情報の収集、整理・比較、発信・伝達等する活動

- メディアによって、得られる情報や印象が異なることを知る
- インターネットの危険性や、情報セキュリティの基本を知る

- クラウドを用いて共同編集する仕組みを知る
- プログラミングを体験したり、生成AIの出力から特性を知る

中学校（新・技術分野（仮称））

- アンケート結果やセンサで得たデータを集計・分析する
- メディアごとの特性や、どのような情報が伝わりやすいのかを考えながらレイアウトなどを決める

- 情報がどのように加工され伝わり影響を与えるのか、メディアを比較しながら理解する
- 多様なセキュリティ対策・対応を学ぶ
- 自他の権利や法を理解し、適切に情報を扱う

- 情報処理の仕組みやコンピュータの構成、生成AI等の基本的な仕組みを理解する
- 身近な課題を解決するプログラムを制作する

高等学校（情報科）

小・中学校で整理した系統性を踏まえ、情報科の内容を更に充実する方向で検討。

※上記の学習活動の例は網羅的に示したのではなく、今後更に専門的な整理・検討が必要。特にタイピングは国語科との役割分担を検討する必要。

質の高い探究的な学びの実現に向けた新たな枠組み（①総合との関係）

- 探究的な学びの充実を図るため、情報活用能力を探究的な学びを支え、駆動させる基盤と位置づけ、探究と情報の一層の連携を以下の考えに基づき整理してはどうか

小学校



小学校段階は、探究的な学び・情報技術の活用、いずれでも中心的な「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」について初めて取り組む段階であることから、一体的に取り組むことで効果的に実施できる。

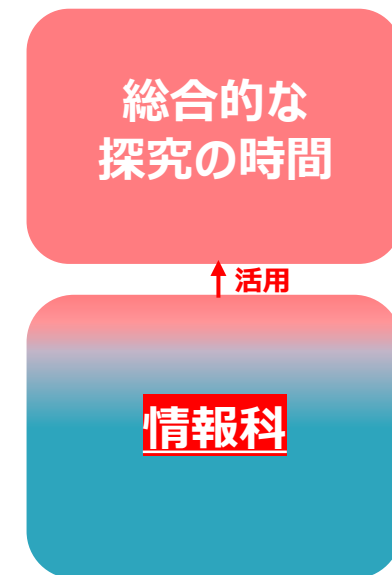
発達段階を踏まえても、体験的な活動が充実している総合において、効果的な活用を可能とする適切な取扱いや特性の理解の基礎も含め、探究的な学びと一体的・重点的に指導できるよう、情報活用能力を育む領域を付加して学ぶ。

中学校



小学校段階で一定レベルの情報活用能力が育成されることを前提として、技術分野を中心に、適切な取扱いや特性の理解をより専門的に高め、身に付けた資質・能力を総合や各教科等での探究的な学びのプロセスで活用・発揮する。

高等学校



小学校・中学校の系統性を踏まえて情報科の内容を充実し、特に情報技術の特性の理解等を専門的に学びつつ、身に付けた資質・能力を総合や各教科等での探究的な学びのプロセスで活用・発揮する。

質の高い探究的な学びの実現に向けた新たな枠組み（②全体イメージ）

- 主体的に学び、自らの人生を舵取りする力の育成や、多様で豊かな可能性を開花させる教育の実現を図るためには、一人ひとりが初発の思考や行動を起こしたり、好奇心を深掘りする中で、学びを主体的に調整し、自身の豊かな人生やより良い社会につなげていく「**質の高い探究的な学び**」の実現が不可欠
- この実現に向け、情報活用能力を各教科等のみならず、探究的な学びを支え、駆動させる基盤と位置づけ、**探究・情報の双方の観点から大幅な改善を図る** ⁽¹⁾ ⁽⁴⁾とともに、**教育の質向上と教師の負担軽減を両立させる方策** ⁽²⁾ ⁽³⁾ ⁽⁵⁾を検討してはどうか

幼児教育

小学校

低学年

中学年

高学年

中学校

高等学校

(1) 総合的な学習の時間に情報活用能力を育む領域を付加することについてどう考えるか。

その際、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成するという、探究の特質が十分に発揮されるよう留意すべきではないか。

(2) 探究の質の向上及び学校の負担軽減を図るため、実践の蓄積を可視化する形で、裁量性を維持しつつ、教員や児童・生徒が参照できる参考資料を作成すべきか。

(3) 中学校及び高等学校での実践の蓄積や、新たな枠組みの全体像を踏まえ、「目標」等の示し方を検討すべきか。その際、小中学校での名称についてどう考えるか。

自発的な活動としての
遊びを通じた学び

生活科

※具体的な活動や体験を通じた学び

総合的な学習の時間

探究

※課題解決を通じて生き方を考える

+ 情報の領域
(仮称)

総合的な学習の時間

↑活用

探究

新・技術分野
(仮称)

↓活用

総合的な探究の時間

※自己の在り方生き方と一体不可分な課題に取り組む

↑活用

情報科

※小中の系統性を踏まえて情報科の内容を充実する方向で検討

↓活用

各教科等

(4) 探究の質の向上を図る上で基盤となる情報活用能力の抜本的向上に向けて、技術分野の内容の大幅な充実を図ってはどうか。

(5) 情報技術は変化が極めて激しいことを踏まえ、教師の負担を軽減する動画教材等を国が提供・更新してはどうか。